

江差町地域公共交通活性化協議会 議事録

会議名	令和4年度第7回江差町地域公共交通活性化協議会
開催日時	令和5年3月30日(木) 14時30分～15時50分
開催場所	江差町役場1階 保健センター(集団指導室)
出席者	委員:出席14名、欠席3名 代理出席者:1名 事務局:3名 事務局支援:1名(Web参加)
議事次第	<p>1. 開 会</p> <p>2. 会長挨拶</p> <p>3. 議 題</p> <p>(1) 令和4年度江差マース実証実験の結果報告について</p> <p>(2) 江差町地域公共交通計画(素案)に対する意見への対応方針(案)について</p> <p>(3) 令和5年度事業計画(案)及び当初予算(案)の提案について</p> <p>(4) その他</p> <p>4. 閉 会</p>
配付資料	別紙のとおり
議事要旨	<p>1. 開 会</p> <p>■ 事務局にて進行(委員出席者が過半数を超過しているため会議成立宣言)。</p> <p>2. 会長挨拶</p> <p>◇ 年度末の中、また年度初めを控えている中の開催となり、大変恐縮ではございますが、本協議会にご出席いただき、感謝申し上げます。</p> <p>◇ 「地域公共交通計画」の策定に向けた協議を進める場として立ち上げた本協議会であるが、本日が、今年度最後の開催となる。</p> <p>◇ 先般、3月17日(金)に、江差町議会において全員協議会を開催いただき、議員の皆さまにも計画(素案)の概要説明を行い、意見を頂戴したところ。</p> <p>◇ 本日の会議では、1月末まで実施していた江差マース実証実験の結果についてご報告させていただいた後、協議事項として、江差町地域公共交通計画の成案化及び令和5年度事業計画(案)・当初予算(案)についてお諮りさせていただく予定。</p> <p>◇ 本日もご出席の皆様におかれましては、限られた時間ではあるが、忌憚のないご意見をいただけたらと思うので、よろしく願います。</p> <p>3. 議 題</p> <p>(1) <u>令和4年度江差マース実証実験の結果報告について</u></p> <p>■ 事務局から「資料1」～「資料2」により説明。</p> <p>◇ 「資料1」に基づき、実証実験の実施概要及び運行実績等について説明。</p> <p>◇ 前半の2か月間(2022年10月～11月)については、住民理解度の低迷等により、利用率があまり伸びなかった中で、曜日別では火曜日・水曜日の利用者が多かった。</p> <p>◇ 後半の2か月間(2022年12月～2023年1月)については、当初、有償による実証運行を予定していたところであったが、前半の利用状況を鑑み、より多くの住民にまずは利用していただくため、無償運行への転換を行った。</p> <p>◇ 後半の2か月間では南部の利用率が高く、南部において曜日別では金曜日の利用者が多く、利用用途としては買い物による利用が多く見受けられた。</p> <p>◇ 北部については、今回初めて対象エリアとして実施したが、南部と比較すると利用率はあまり伸びなかった中で、曜日別では火曜日の利用者が多く、利用用途としては、ブンテンやサツドラへの買い物、道立江差病院への通院による利用が多く見受けられた。</p>

江差町地域公共交通活性化協議会 議事録

議事要旨

- ◇ 江差マース実証実験では、登録制による実施体制の中で、全体の65%が女性の登録者で占めていた。
- ◇ 年齢別では、利用者の多くを占める60代以上については女性の割合が高かった一方で、50代未満になると男性の比率が高く、自家用車の依存度の高い60代以上の男性による利用率向上が本格運行時の課題と捉えている。
- ◇ 町内の居住地別の登録状況について、南部では中歌町、南が丘の割合が高く、特に南が丘については後半から対象エリアとなった中で、利用者の伸び率が最も高かった。
- ◇ 北部では、水堀町、柳崎町の割合が高く、柳崎町については近隣にスーパーや道立江差病院がある中で、悪天候などの際に利用された住民が多かったが、水堀町については街中から離れた位置にある中で、自家用車のない住民による利用が多かった。
- ◇ 全体的に、地区ごとによって少し偏りが生まれており、最終的に固定化されたような傾向であったため、本格運行時には先程挙げた地区以外の、いわゆる交通空白地に該当する地区の住民による理解度の向上及び周知活動の強化などがかなり重要であると捉えている。
- ◇ 1人あたりの利用回数について、全体の登録者のうち7割近くが実際の利用がなく、残りの3割のうち約1割が実際の利用が1回のみの結果。
- ◇ 登録者全体の7～8割が、ほとんど利用がなかったことから、より住民の移動実態に即した運行内容の見直しなどが必要なものと捉えている。
- ◇ 配車予約の方法としては、全年代を通してLINEによる利用が大半であった一方で、60代、70代、80代と高齢層になるにつれて、12月から実装されたコールセンターによる電話予約や携帯端末を持っていない住民を対象に一部施設に設置していた据置端末(タブレットPC)による予約者の割合が高かった。
- ◇ 時間帯別の予約数について、前半は14時の時間帯での利用が多く、後半は午前中の10時～11時の時間帯での利用が多かった。
- ◇ 利用者の多い時間帯では、南部では買い物施設や金融機関への利用が、北部では買い物施設や道立江差病院への利用が集中していた。
- ◇ 自宅から目的地間の往復が全体の約6割であった一方で、残りの約4割は自宅以外の乗降地点間の利用が見受けられたことから、回遊促進に一定程度つながったものと捉えている。
- ◇ 複数乗車での乗合率については1割未満に留まり、大半が一組による単独での運行であった中で、乗合率の向上は、運行の効率化にもつながってくることから、こういった側面からも運行内容の見直しなどが必要なものと捉えている。
- ◇ 検証ポイントの一つであった、奥尻町民による利用可能性について、実証期間中、奥尻町民による利用実績がなかったことから、奥尻町民との意見交換会を開催し、江差マースや普段の移動実態等についてヒアリングしたところ、「島外移動の多くは函館市内の医療機関への通院であること」、「生鮮食品やドラッグストアでの買い物は江差町内で済ませる奥尻町民は一定いること」、「江差マースに対しては取組自体を認識している奥尻町民は一定いる一方で今回の実証実験において町全域を北部・南部の区分けしていることにより実際の利用には結びつかなかったこと」などが主な意見として挙げられた。

江差町地域公共交通活性化協議会 議事録

議事要旨

- ◇ 「資料2」に基づき、江差マース実証実験に係るアンケート調査の結果概要について説明。
- ◇ アンケート調査は、3月20日(月)までを実施期間とし、北部・南部合わせて600世帯の住民に調査票を配布。
- ◇ 登録・利用者を含めた、合計1,055票の配布に対して、回収票数は199票、174世帯(回収率29%)の結果。
- ◇ 回答者属性としては、性別別では女性、年齢別では70代、居住別では江差マースの利用が多く見受けられた北部の柳崎町や南部の南が丘の割合が高かった。
- ◇ 今回初めて対象エリアとして実施した北部における、前半に南部の上町・下町地域で実施していた実証実験の認知度については、約8割が「知っていた」と回答。
- ◇ 南部における、前年度の2月に実施した実証実験及び今年度の前半に実施した実証実験の利用率については、約8割が「利用しなかった」と回答。
- ◇ 実証実験内容の情報手段については、約8割が「広報えさし」、残りの約2割は「住民説明会」などを通じて情報収集をされていることから、今後の本格運行にあたっては「広報えさし」や「住民説明会」については継続していくことで捉えている。
- ◇ 事前登録をした回答者の割合は約4割で、こういった側面からも、今後の本格運行時に登録者数を伸ばしていくためには、運行内容の見直しなどが必要なものとして捉えている。
- ◇ 配車予約方法としては、「資料1」で説明したとおり、LINEによる利用が最も多く、次いでオペレーター相手による電話予約が多くなっている。
- ◇ 特に、高齢者による利用が多い北部については、オペレーター電話予約の利用が顕著となっており、今後、MaaSといったデジタル化を進めていく過程では、スマホアプリや今回実装の自動音声電話のようなサービスに対する不安要素を取り除きながら、徐々にアナログからデジタルへ移行していくことが必要なものとして捉えている。
- ◇ 回答者における、登録もしくは利用をしなかった理由として「普段、公共交通ではなく自動車を利用しているから」が最も多く挙げられており、その他「登録方法・利用方法が分からなかったから」など入口部分で躓いている方が一定程度いる状況が見受けられたことから、住民に対してのよりきめ細やかな周知が今後求められるものとして捉えている。
- ◇ 本格運行化した場合の回答者による利用意向について、「サービス内容によっては利用したい」割合を含めると、約8割が利用したいと回答しており、こういった側面からも、江差マースを実証実験に留めるのではなく、本格運行に向けて取り組みを継続していく必要があるものとして捉えている。
- ◇ 「サービス内容によっては利用したい」と回答した方々の中で、どのようなサービス内容であれば利用したいかについては、「今回運行した曜日(火・水・金・土曜日)以外の利用も可能」及び「利用当日でのオペレーター相手による電話予約も可能」がそれぞれ約3割ずつ挙げられている。
- ◇ 特にオペレーター電話予約については、人材確保や事業費の精査などが求められるところであり、一定期間、デジタル化と同時並行で進める必要があるが、将来的なデジタル機器への完全移行化を目指す上では、住民の取り組みに対する理解度の向上を図っていく必要があるものとして捉えている。

江差町地域公共交通活性化協議会 議事録

議事要旨

- ◇ 継続してほしいサービス内容については、「町全域（北部・南部の各地域）での運行」が最も多く挙げられているが、真意としては南部から北部といった、地域を限定せずに町全域での行き来をできるようにしてほしい回答者の思いが表れているものと推察。
- ◇ 配車予約の機能以外に充実化してほしい機能については、運賃の事前決済・電子決済を求める回答割合が高くなっていることから、本格運行に向けた事業者とのサービス内容構築の参考としたい。
- ◇ 本格運行化した場合の、1回あたりの運賃の支払い意思額については、北部・南部の同一地域内での移動の場合は300円の回答率が最も高く、北部・南部間の移動の場合は500円の回答率が最も高かった。
- ◇ 前半の実証実験では、1日500円乗り放題料金制を採用していたところであり、アンケート調査上での支払い意思額とは大きく乖離していないものの、片道運賃の設定など高齢者等でも比較的にしやすい金額内容について検討していく必要があるものと捉えている。
- ◇ 定期券に近いものとして、定額制の乗り放題サービス（サブスク運賃）を適用する事例が増加している中で、当該料金の利用意思状況については、「サービス内容によっては利用したい」割合を含めると、約8割が利用したいと回答しており、支払い意思額としては3,000円の回答率が最も高かった。

■ 意見等特段なし。

(2) 江差町地域公共交通計画（素案）に対する意見への対応方針（案）について

■ 事務局から「資料3」～「資料4」により説明。

- ◇ 計画全体の構成や主要事業等については、前回の協議会で説明をさせていただいたため、本日は、協議会構成員及び関係機関等からの指摘を踏まえ、本計画（案）に反映させていただいた内容を中心に説明させていただく。
- ◇ 関係機関等からの意見等に対する対応一覧は「資料4」のとおりで、特に重要な箇所を抜粋してお話する。
- ◇ 檜山振興局様からご指摘いただいた部分として、計画全体を通して、本計画におけるバス路線の位置付けを「基幹的地域間幹線系統」・「準基幹的地域間幹線系統」の名称で明記していたが、国の補助事業名である「地域間幹線系統」と混同する恐れがあることから、それぞれ「基幹的広域バス路線」・「準基幹的広域バス路線」に修正。
- ◇ 3ページの関係法令・上位計画等との関連性について、本計画においては高齢者への支援を優先している観点から、「第8期江差町高齢者福祉計画」・「第8期江差町介護保険事業計画」を新たに関連計画に位置付けし、当該計画の概要を16ページに登載。
- ◇ 42～46ページの民間バス路線乗降調査結果概要について、当初内容のままだと、バス路線ごとの移動状況が分かりづらい構成であったことから、全バス路線のOD図をそれぞれ反映。
- ◇ 55ページの記載事項について、当初、「函館バス株式会社の路線」としていたが、計画全体での表記を統一させるため、後述も含めて、「函館バス株式会社の民間バス路線」に修正。
- ◇ 60ページの公共交通で補完すべきターゲットについて、「島民」を「奥尻町民」に修正、路線バスの課題箇所に「乗務員不足」を追記、要介護・要支援の課題箇所の「運送しようとする旅客の範囲の妥当性が不明確」を「福祉有償運送等の制度に対する理解度の向上」に修正を、それぞれ反映。

議事要旨

- ◇ 83 ページの記載事項について、当初、「～一方で、高齢者等は携帯端末を活用する際、コミュニケーションツールとして活用している方が多く、ICT に不慣れな状況～」としていたが、これまでの調査結果等を踏まえた高齢者における ICT 機能に対する課題感を明確化するため、「～一方で、高齢者等は携帯端末を活用する際、コミュニケーションツールとして活用している方が多いが、それ以外の ICT 機能については不慣れな状況～」に修正。
- ◇ 84～85 ページの重点課題について、後述と合わせた表現とするため、「(I) …」、「(II) …」から「重点課題 1 …」、「重点課題 2 …」に修正し、重点課題 2 については、当初の「地域内交通と基幹的・準基幹的地域間幹線系統…」から「地域内交通と広域交通との接続性の確保」に修正。
- ◇ 87 ページの「(ii)-iii 公共交通の見える・魅せる化に向けた利用促進策の実施」について、函館運輸支局様からご指摘いただいた部分として、運転手不足が運送事業の喫緊の課題となっていることを踏まえ、運送事業の担い手確保につながる表現とするため、当初の「～公共交通のことをより若い世代から考えていただき、身近に感じていただく方策～」から「～若年層に公共交通のことをより考えていただくことで、将来の担い手確保につながる方策～」に修正。
- ◇ 107 ページの評価指標 6「接続拠点の創出」について、「目標設定の考え方、計測方法等」を当初「～「かもめ島周辺エリア」、「旧江光ビル跡地活用拠点施設」が交通拠点として創出されるため、新規で交通拠点として位置付けを整理します。」から「～交通拠点として設定する「北海道立江差病院」に加え、「かもめ島周辺エリア」及び「旧江光ビル跡地活用拠点施設」が新たな交通・交流拠点として創出されるため、接続拠点としての位置付けを整理します。」に、「～交通・交流拠点の創出状況～」から「～交通・交流拠点の総箇所数（維持を含む）～」にそれぞれ修正。
- ◇ 109 ページの評価指標 13「江差町地域公共交通活性化協議会の開催回数」について、当初、現状値を「5回」としていたが、書面協議を含めると本日の協議会が第7回目となることから、「7回」に修正。
- ◇ 一般住民からのパブリックコメントを3月9日（木）から3月24日（金）まで公募したが、意見提出はなし。

■ 各委員から次のとおり意見あり。

①-1（酒井委員）

- ◇ 計画（案）の作成にあたって、当支局からの指摘事項を反映いただき感謝申し上げます。
- ◇ 乗務員不足は非常に深刻な問題となっていることから、ぜひ力を入れて進めていただきたい。
- ◇ 将来的な担い手確保に向けた施策に加えて、即効性が期待できる事業として、例えば、就職説明会などの開催も、状況を見ながら施策に加えられようご検討いただきたい。

①-2（事務局）

- ◇ 今後、江差マースの本格運行化、既存の公共交通の見直しを行うにあたっては、当然、どんなサービスを構築していくかといった観点も大切であるが、同時に人材をどのように確保していくかといった観点も重要であると認識。
- ◇ 就職相談会などの取り組みは、行政の立場としてご支援できる部分について、来年度以降、関係機関とも連携しながら随時検討していきたい。

江差町地域公共交通活性化協議会 議事録

議事要旨

②-1 (山本委員)

- ◇ 計画(案)の作成にあたって、当局からの指摘事項を反映いただき感謝申し上げます。
- ◇ 酒井委員からもお話しがあったが、4月15日に渡島総合振興局の庁舎で、担い手不足解消に向けた就職相談会の開催を予定しているため、各町におかれましては広報誌による周知など、今後も情報提供をさせていただく。
- ◇ 計画(案)の88ページについて、将来像の中で「江差マース」の矢印が点線で南部から北部に伸びているが、こちらについては函館バス株式会社様による補助路線との競合が想定されることから、導入を検討するにあたっては「路線バス」と「江差マース」の役割分担を図りながら、検討を進めていただきたい。

②-2 (事務局)

- ◇ 「江差マース」については、基本的に今回の実証実験のような既存の公共交通との役割分担をもちながらの構築にはなるが、住民から北部・南部間の移動需要がアンケート調査等で多く見受けられたところ。
- ◇ 住民の移動ニーズを「江差マース」に十分に反映していく必要があるものと捉えているが、引き続き、路線バスを中心とした交通網の中で、バランスを見ながら慎重に進めていく考え。
- ◇ あくまでも町内全域を前提に進めるものではなく、来年度以降、本協議会を中心に移動ニーズと照らし合わせながら検討していきたい。

- 他の委員から意見等が特段ないことから「資料3」～「資料4」の内容により計画策定を進めることで承認。

(3) 令和5年度事業計画(案)及び当初予算(案)の提案について

- 事務局から「資料5」により説明。

- ◇ 来年度からは、地域公共交通計画に基づき庁内関係部署、交通事業者、関係自治体等との協議を随時進めていく。
- ◇ 「江差マース」の本格運行化を地域公共交通計画内で位置付けているところであり、来年度については、本協議会の分科会にあたる「専門部会」を中心に、今年度を実施した実証実験の効果検証及び今後の方向性についての議論を進めていきたい。
- ◇ まずは、来年度の中で「江差マース」の有償による実証運行、いわゆる試験運行のような形態で実施したいと考えており、シームレスな流れで、令和6年度以降での本格運行化を目指していきたい。
- ◇ 本協議会の分科会に、地域公共交通計画内で新たに位置付けた「福祉部会」の立ち上げを予定しており、同部会では福祉有償運送事業者を中心に参画いただきながら、福祉有償運送等の制度における課題共有や課題解決に向けた活動内容の協議を進めていきたい。
- ◇ 第1回目の本協議会は6～8月頃の開催を予定しており、議題としては今年度の事業報告及び収支決算・監査報告をさせていただいた後で、各分科会の協議結果等の報告、そして「江差マース」の有償による実証運行の方向性等を協議させていただく予定。
- ◇ 10月以降も、適宜、本協議会を開催させていただきながら、「江差マース」本格運行化の方向性等について協議を進めていきたい。

江差町地域公共交通活性化協議会 議事録

議事要旨

- ◇ 当初予算については、歳入・歳出ともに1,816千円を計上しており、「江差マース」や新たな取組みに関する事業費が発生次第、適宜、補正予算による調製をさせていただく。

■ 各委員から次のとおり意見あり。

①-1 (小野寺委員)

- ◇ これまでの議論を踏まえて、細かい点の協議を進める場として、全体の会議以外にも、専門部会などの分科会での協議が必要で、来年度以降、活動を進めていく旨事務局から説明があったが、それぞれの部会で関わる方々との議論を密に進めるためにも、可能な限り、事業計画以上の開催を検討いただきたい。
- ◇ 先程意見交換のあった、地域公共交通計画における将来像について、「江差マース」の実証実験でも議論のあった北部・南部による区分けなど、こうした論議は全体の協議会で行うのか、専門部会や住民部会といった分科会で行うのかなど、どのように進められるのか。
- ◇ 将来像については、遠い将来ということではなく、鋭意、実現に向けてできるだけ早く進めてもらいたいと思うが、どの段階のものを将来像として示しているのか。
- ◇ 「江差マース」について、これまで町内会の方々のご協力もいただいた中で、当然ながら様々な意見はあるものの、本格運行化に向けて、実証実験を重ねていきながら、多くの方々に利用方法を理解していただく、より利用しやすい運行方法を模索していくといったことが必要であると考えるが、来年度の有償による実証運行は、事業計画に示されている1～3月の時期でなければいけないものなのか。
- ◇ 冬季期間の厳しい時期に実施することも重要な観点であると思うが、1年も先の時期になってしまうと忘れられてしまうため、1～3月の時期にこだわらず、もっと早い時期に実施することはできないか。

①-2 (事務局)

- ◇ 専門部会では交通事業者を中心に公共交通事業の課題に関する協議を進める場として、住民部会では住民代表団体等を中心にこれまでの調査結果や今後の方向性等について説明・住民要望をとりまとめる場として、福祉部会では先程申し上げたとおり福祉有償運送についての議論を進める場としての役割をそれぞれ想定しているが、いずれにしても、これまでは全体での協議会を中心に議論を進めてきたものから、来年度以降に関しては、分科会を中心とした協議を継続的に実施し、各部会の協議結果等を最終的に本協議会でお諮りする流れとしていきたい。
- ◇ 地域公共交通計画の将来像について、計画期間が来年度からの5年間であり、「江差マース」などの計画期間内での交通施策のあり方を示していることから、計画期間を経た5年後の将来像を想定したもの。
- ◇ 社会情勢の変化等により、既存のバス路線や江差マースなどの状況が変わることも想定されるので、適宜、地域公共交通計画の見直しを図りながら進めていきたい。
- ◇ 「江差マース」の有償による実証運行については、現時点での予定スケジュールであり前後する可能性は十分にあるが、本格運行化にあたって、かなりの事業費が発生することが予想でき、これまでもこれからも補助事業を活用しながらの展開と想定している。

江差町地域公共交通活性化協議会 議事録

議事要旨

- ◇ 補助事業の活用に向けた準備、関係事業者との合意形成などの兼ね合いから、これまで積み上げてきたものを活かしながら、一定程度、時間をかけて進めていくべきものと捉えているので、ご理解いただきたい。
- ◇ 「江差マース」については、次回の展開を、有償による実証運行としているが、より本格運行化を意識した取り組みを進めていく必要があると捉えており、現時点の想定ではあるが、来年度の実証運行からシームレスな形で、令和6年度での本格運行化につなげていきたい考え。
- ◇ 交通事業者との協議を重ねながら、住民の熱を冷まさないよう、要所で住民の方々に考えていただく機会の創出も併せて取り組んでいきたい。

■ 他の委員から意見等が特段ないことから、「資料5」の内容により承認。

(4) その他

■ 田畑会長から各委員へ全体を通しての意見等を求めたが特段なし。

以上により閉会